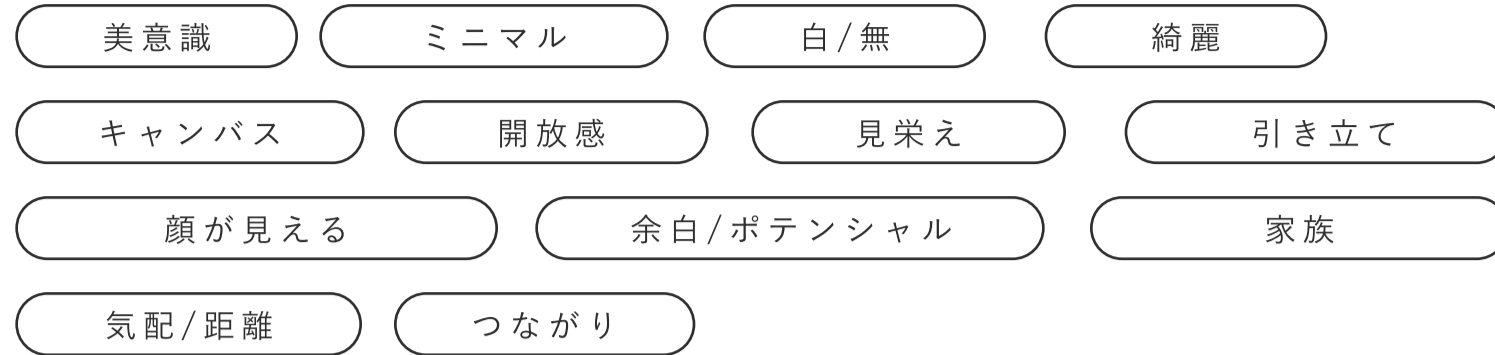


CONTENTS

コンテンツの方向性

Keyword



Pain

シンプルな家が少ない。家族との時間を大切にしたい。飽きそうで家の購入が怖い。
在宅時間が長いから開放感ある家に住みたい。ミニマルすぎる家は難易度が高そう/無機質に感じる。

Benefit

どんな時代でもマッチします。飽きません。ずっと大事にしたいです。
人とモノが引き立つので家具/家電が映えます。家族の気配を感じながら生活できます。
無駄な仕切りがないので開放感があります。白と木のマッチで温かみがあります。

Concept

「自分達がアクセント 気配が引き立つ白い家」

いつの時代でも愛される「白」。
「光」や「そこに存在するもの」のカラーを反射し、
より明るく彩り豊かな生活を約束します。

飽きが来ないだけでなく、間仕切りを最低限に抑える事で開放感ある空間に。
より家族の「気配」を感じながら、過ごすことができます。

この家では、自分たちがアクセント。
家という大きなキャンバスに何を描きますか。

DESIGN

デザインの方向性

Keyword



Theme

「キャンパス」

箱だけでは生活は出来ず、生活に必要なモノを配置して初めて暮らせる様になる。
「家を作り上げるのは、そこに住む人」という前提を持ち、テーマを設定する。
光を反射しやすい白の特性を意識して、余分な要素は排除し、濃淡や強弱のみで表現する。

Tone

「白黒/濃淡/余白」

特にアクセントカラーは用いない。
光・影が持つ白黒の濃淡や強弱のみで表現する。
セクション間のマージン、カーニング等の余白は十分に確保し、(視認性最優先)
開放感/落ち着きのあるトナリを維持していく。

PRODUCT CANVAS

INTERVIEW

インタビュー

UME architects 一級建築士事務所
一級建築士 梅原悟さん

時代と共にライフスタイルは変わり、子ども一人一室が当たり前になってきました。一人で過ごす時間を尊重しながらも、家族との繋がりが育まれる家はどんな姿でしょうか。
そんな問いから、今回ご提案するのは「キャンパスの家」です。シンプルだからこそ生まれる家族との繋がりを大切にしています。

家族を繋ぐ「キャンパスの家」

家族一人ひとりの空間と時間を大切にしながらも、一体感は欲しい。そんな家での暮らしを想像している方に向けてつくったのがミニマル的な「キャンパスの家」です。

「ミニマル」と聞くと無機質なイメージもありますが、この家を目指すのは家族の温もりを感じられる空間です。素材や色をシンプルにすることで広い空間や光の入り口を確保。家族が過ごしたくなる心地よいリビングが生まれます。家族が集えば、自然と会話が生まれ、繋がることできる。そんな暮らしをイメージしました。

僕もまさに白で統一した3階建の「キャンパスの家」に住んでいますが、2階にいと上から声がかかったのか、下から声がかかったのかかわらないのが面白くて。同じ家にいるんだけど、どこにいるかわからない。それぞれの時間と空間を大切にしながらも、家族との繋がりを感じながら暮らしています。

シンプルさが生む美しいビジュアル

この家の特徴は見た目通り「白」です。長くヨーロッパに住んでいましたが、あちらでは住まい手自らが壁の色を塗る文化があります。僕も様々な色を塗って住みましたが、最も落ち着いたのが「白」でした。

「白」はミニマルで、広い空間を演出するにはピッタリの色です。外壁にはエアコンの室外機やネジなど様々な器具を使いますが、多くは「白」を基本装備しています。目立ってほしくないものを目立たなくするために「白」は優秀です。外壁を漆喰や吹き付けで仕上げれば、まるでショートケーキのように美しい横顔に仕上がります。厚化粧ではない、シンプルだからこそ生まれる表情を気に入ってもらえたら嬉しいです。

また、内観もホワイトを基調にしました。素材と色を最低限にすることで、空間の広がりを感じられます。間取りをキャンパスの緑と捉えれば、暮らし方は自由自在。住まい手ならではの表現を楽しんでいただけます。

真っ白なキャンパスに家族の色を重ねていく

家族が過ごす2Fは、フルオープンなワンルーム的LDKにしました。家具をできるだけ減らし、造付棚にすることで、フレキシブルな空間ですっきりとした印象になりました。造付棚があることで物の置き場が決まり、まるで美術館のようなスッキリとした空間を保ちながら暮らしていきます。

真っ白なキャンパスに絵を描くように、全て「白」に統一することで、住まう方々の個性を表現しやすい家になりました。どんな色を塗り重ねていくかはあなた次第。そんな観点で暮らしを楽しんでもらえたら幸いです。

